

平成28年度 第3回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：平成28年10月25日（火）10時00分～11時30分

場 所：市役所第1庁舎4階第2委員会室

出 席：審議会委員 緒方泉会長、加藤潤二委員、古賀弥生委員、坂崎隆一委員、志賀満江委員、
西野宏委員、結城俊子委員、米倉小夜子委員

行 政 中村隆象市長、長谷川清孝教育長

事 務 局 清水万里子教育部長、星野美香文化課長、木村眞由美歴史資料館長、
金子由美子文化振興係長、文化振興係主事田中音羽

欠 席：審議会委員 中山早由利副会長、白石建藏委員

傍聴者：なし

①レジュメ

②平成29年度文化芸術関連事業企画書（案）

③国史跡指定記念企画展船原古墳展チラシ

④第2回文化芸術審議会会議録

（司会：金子文化振興係長）

1 開会の言葉（清水教育部長）

2 市長あいさつ

おはようございます。私、文化芸術とは景観と密接な関わりがあると思っております。話題提供としてお話ししたいと思います。前回の古賀市議会で、ある議員の方から、古賀市のウェルカム看板といいますが、例えば、ようこそ〇〇市へという看板。そういう看板を他市町で良く見かけます。この近隣でいいますと、国道三号線を福津市のほうへ行きますと、福津市の海岸という石造りのちょっと洒落た案内板があります。そういうのはどうかと質問がありました。10年以上前に、庁内で看板をどうしようかという議論をしたことがあります。サイン計画といって、道路の曲がり角に主な施設がわかりやすいようにすることをやりました。それ以外に、古賀市のウェルカム看板、イメージアップの看板の話も出ましたが、結論的には見合わせようという話になりました。今改めて庁内で議論しています。時間にも限りがありますので、この場で議論していただくことは難しいかもしれませんが、ご意見をいただければ、今後の庁内の会議で参考にさせていただきたいと思っております。余計なことではございましたが、よろしく願いいたします。

3 会長あいさつ（緒方会長）

おはようございます。急に寒くなりました。体の調整というのが難しく、大学でも学生たちが風邪を引くなんてこともあってあります。今日はお二方欠席になっていますが、みなさんと元気に今日もまたいろんな話が出来ていくことを楽しみにしたいと思っております。船原古墳が国史跡の指定になったということを考える中で、文化庁の中で29年度の概算要求の資料がホームページ上に出てきているんですが、二つくらい古賀市に関係するようなものがあるそうだと。国が2020年のオリンピックに向けて、訪日外国人向けの様々な日本遺産をもう一回市町村でしっかり掘り起こしてくださいよという声かけを始めています。それを反映する一つ、日本遺産魅力発信推進事業というものが上がってきています。これは全国の市町村に対して55箇所に、定額の補助をしましょうというもので、予算規模15億ほどあります。今までの各市町村の文化財や文化遺産は点の存在でしかなかった。しかし、2020年のオリンピックを契機に、訪日外国人や日本人も動くわけですね、全国を。そのときに、点ではなく面として文化芸術を見ていけるような方策を各市町村には考えてほしいなということで、来年度か

ら始まるということのようです。そして、今の看板の話で言うと、市長もお考えだと思いますが、点としての看板ではなく、面としてみなさんをご案内しないと意味が無いので、そこらへんを考慮していかなければならないかなと思います。これは名前が変わってるみたいですが、歴史活き活き史跡等総合活用整備事業。これも船原に関係することと言うと、ガイドンスに関わる施設やら、看板等っていうのは、当然ながら来年度以降市のほうで予算化していくと思うんですが、これについても2分の1補助、170件くらい予算化しているようです。これは47億くらいですかね。オリンピックに向けて、国のほうは地域の文化の関連する施設や行事も含めて、この機にきちんとまとめなくちゃいけないという考えがあるようです。そのために、一つは今までの考え方で、地域の文化遺産を地域活性につなげようと、もう一つは観光庁ですね。この間も、文化庁と観光庁が包括提携を結びましたけども、観光資源としての文化遺産をどういう風に考えていくのかを2020年に向かうのを機に市町村は考えてくださいよというのが出ています。ぜひホームページを見て、定額だと取れるなら取ったほうが良いに決まっているから、ぜひ名乗りを上げてもらえたらいいなと思っています。この会についても、今年度、そして次年度アクションプランについても着々と進められていると思います。この後にも、アクションプランに基づいた予算編成方針というのでも聞かせていただくことになるかなと思います。今回についてもみなさん色々な意見を出し合いながら、よりよい文化芸術の推進について話をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(金子文化振興係長)

ここでお断りがあります。市長と教育長は別の公務の関係で、ここで退席をさせていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。また、会議に入ります前に、一点ご報告がございます。ご報告が遅くなりましたが、本日、副会長の中山委員と白石委員につきましては、ご欠席とのご連絡を受けておりますので、ご報告いたします。それでは、ここからの進行を緒方会長をお願いしたいと思います。緒方会長よろしくお願ひいたします。

4 協議事項 (田中)

(1) 平成29年度文化芸術関連事業企画書(案)について

ご説明いたします。はじめに、資料の訂正が1点ございます。大変申し訳ございませんが、今から申し上げる箇所について資料のご訂正をお願いいたします。6ページの「サロンコンサート」について、昨年度予算額と今年度予算額が「25万」となっておりますが、どちらも「61万5千」になります。以上が訂正点になります。ご迷惑をおかけいたしまして申し訳ありませんでした。では、内容報告に移ります。本企画書に記載しております金額及び計画はあくまで昨年度をもとに叩き台として作成したのになりますので、今後変更する可能性がありますことをご承知ください。では、昨年度との変更点、もしくは特記事項のみご説明させていただきます。まずは、10ページ「レッツトライ!プロジェクト」について。例年、企画書の作成や補助金・助成金の取得方法を学んでもらうこと等を中心に講座を実施しており、今年度も、テーマを薬王寺として、参加者に事業の企画立案をしてもらうことを予定しております。しかし、来年度は、その企画を実行に移してもらうことを目標とし、事務局としてはそれをサポートする講座を計画しております。次に、12ページ「計画管理事務」について。文化芸術振興計画及びアクションプランの進捗状況に沿った見直しの時期が平成30年度になります関係から、平成29年度から見直しについての準備として、ご多忙の中大変恐縮でございますが、審議会開催の回数を1回増やす予定としております。つぎに、前回の審議会の際にもご説明しておりましたが、機構改革の関係で歴史資料館の業務も本係が担当しますことから、来年度予算についても資料を添付しております。そちらにつきましては、係長の金子のほうからご説明いたします。

(金子係長)

歴史資料館事業の来年度の企画（案）について、ご説明させていただきます。歴史資料館事業に関しましては、資料の1ページ目の「企画展」と、13ページ目の「自然史・歴史講座」の2事業について、ご説明させていただきます。まず、企画展についてでございます。歴史資料館の企画展につきましては、毎年、年に1～2回、期間としては1ヶ月間程度で開催しているものでございます。来年度につきましては、記載しておりますとおり、『漂着物展 ～海辺のおくりもの PARTⅡ』と題しまして、平成11年度に開催しました企画展『海辺のおくりもの』の第2弾として、新たな視点や趣向を加えながら、開催したいと考えているところでございます。今年の5月に亡くなりました、当歴史資料館の元館長石井忠氏所蔵の漂着物及び関連品等の展示・解説等を行ないたいと考えております。予算としましては、ほぼ例年並みを予定しております。続きまして、13ページの自然史・歴史講座についてご説明いたします。来年度の自然史・歴史講座につきましては、現段階におきましては、年間5回を予定しております。講座の形式としましては、記載しておりますように、第1回、第4回、第5回の講座は、市のマイクロバスを使用して史跡等をめぐる現地学習、第2回の講座は講演、第3回講座は、子どもを対象とした講座で体験学習という形で予定しております。先般、国史跡の指定を受けました船原古墳につきましては、平成29年度以降も継続的に講座のテーマとして取上げ、郷土古賀の宝・国の宝として、市民の興味・関心をさらに高めていきたいと考えております。船原古墳以外の講座のテーマにつきましては、市民のニーズ等も勘案しながら選定し、また、子ども対象の講座につきましては、体験型学習を中心とした、子どもが楽しみながら学べるような講座を展開していきたいと考えております。なお予算につきましては、例年並みを予定しております。歴史資料館事業についてのご説明は以上ですが、最初に田中のほうからもご説明いたしましたとおり、今回の資料に記載しております企画内容及び平成29年度の予算額は、あくまで、本日の会議に提出するための資料として、昨年度の内容をもとに、たたき台として現時点での案を記載しているものですので、今後、変更になる可能性が十分にありますことをご承知おきくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

(緒方会長)

企画書のご説明でしたが、資料館については、企画展の話、学習講座の話、それと、審議会が1回延びるということと、レッツトライ！プロジェクトのこと説明していただきました。事前にこれ、見ていただいているところなので、今年度の課題を踏まえて来年度の予算をどのように立案していくのかということになります。みなさんのほうからも、他のページを含めて、気が付いたことがあればご意見いただければと思います。

(西野委員)

西野です。今、たまたま自然史・歴史講座のことにふれられましたので、ご説明いただいた金子係長にお尋ねします。過去、この講座で、1～2回私たち史跡案内ボランティアがお手伝いをさせていただいたことがあります。これを見ると、第4回または5回の講座で、私たち史跡案内ボランティアが説明なりのお手伝いさせていただけないかと。私たちの今後の活動の励みにもなりますので。決して、させてくれというわけではありませんが、そういう場を与えていただけたら、励みになりますので、そこらへんをどのようにお考えかお聞かせ願えたらと思います。

(事務局)

ありがとうございます。先ほど、申し上げましたようにこの第4回第5回については、係内で内容について検討していますところですので、必ずこの講座をやると確定したわけではございません。この講座で実施する場合にしても、また別の内容で講座を実施する場合にしても、ご協力いただく場合は、こちらのほうから史跡案内ボランティアさんに、ご協力をお願いをさせていただきたいと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。

(緒方会長)

現地学習などについては、交流というのは非常に重要な要素になると思いますから、史跡案内ボランティアの方が学習して、その学習の成果を来られている方々に披露するという学びのプロセスが確保されることになればいいなと思いますので、よろしく願います。他にございますか。

(加藤委員)

この10ページ、レッツトライ！プロジェクトですが、私は大いに期待しているところです。今回、薬王寺という地域を限定してありますから、かなり具体的な内容が決まっているのかなというような気がします。もうちょっと具体的に内容を説明いただきたいなと思います。それから、1ページ目の企画展、この中でまだ予算の査定もあっていないので何とも言えないと思いますが、この予算の中の臨時雇いの賃金。これはおそらく、会期中の警備等の委託、あるいは、搬入搬出にかかる臨時雇いの賃金かと思いますが、査定の際にはこういうところを一番に見ていきます。金額が確定していないとしても、この予算が削られてしまったときにどうするかを考えているのかということと、この臨時雇いの具体的な依頼内容についてお聞きしたいなと思っています。

(事務局)

ではまず、レッツトライ！プロジェクトに関するご質問についてお答えいたします。現在、コーディネーターや商工政策課、経営企画課と企画内容について協議をしております、それを踏まえて薬王寺温泉街の方々のお話を伺う予定としております。今年度の講座内容としては、企画の内容をいくつかこちらであげ、それを練ってもらう予定としておりますので、今現段階で、具体的に決まっておらず、はっきりわからないという段階です。

(事務局)

続きまして、企画展の内容についてお答えさせていただきます。臨時雇い職員の職務の内容につきましては、主に会期中の受付、監視、ご来館された方へのご案内やご説明のための職員として任用するものでございます。それから、もう一点のご質問にお答えします。このままこの予算が通らなかつたらというご質問ですけども、ここ数年この予算で財政課のほうも通っておりますので、まず大丈夫だとは思いますが、しかし、もし削減された場合は、まず財政当局にどうしても必要だというご説明をしますとともに、それでもどうしても削減するという話であれば、みなさまのご協力、ボランティアさんのご協力を仰ぐとか、職員でどうにか対応できるように措置をする等を考えております。

(加藤委員)

先ほどの薬王寺の関係ですけども、私がもし企画するならば、薬王寺に安川さんの窯元が一軒ありますね。米多比にも鄭さんの窯があります。その辺もかねて紹介すればいいのかなと。河内池の一番奥に、採石場の跡地があります。これは市内の方でも見る機会が少ないと思います。一部、崩れかけているところがありますが、何十メートルもの絶壁があるのを多分みなさん知らないと思います。進入路が荒れておりますので、地元の人々の協力で若干人が通れるように整備して、あそこは見せたいなど。出来れば将来的に、あそこは音響の関係がものすごくいいので、個人的にはあそこで薪能をしたいなど。地元好きな人、多分誰が絡んでくるかなというのはなんとなくわかりますが、その辺も含めて、ぜひ薬王寺という地域を盛り上げてほしいなと思います。

(緒方会長)

ごめんなさい。ちょっとわからない。採石場というのはどういう種類のものですか。

(加藤委員)

山を半分削り落として、そこで採石が終わっているわけなんです。その跡がとにかく絶壁で、ロッククライミングが出来るような何十メートルもある絶壁です。手を打ったら、パンパンと返ってくるような、音響が全くいらぬ場所ですね。

(緒方会長)

私有地ですか。

(加藤委員)

あれは、区有地だったと思います。確か、区が貸して、採石が終わってそのまま。

(緒方会長)

何とかGOじゃないけど、人の私有地に勝手に入るのは色々トラブルになりますから、そこらへんは気をつけないと。

(西野委員)

あれは掘り終わってるんですか。

(加藤委員)

掘り終わって撤退した後を、一時期、空いとったからオートバイマニアとか、白バイとかの訓練の場所になって。あそこは芸術文化に使うのはいいなど。

(西野委員)

私もわからないけど、山はだんだん低くなりますから、どこまで低くなれば終わるのかなと。あそこは掘り尽くしているわけですね。

(加藤委員)

上の部分を掘っていったわけじゃなく、あそこは、山の頂上から薬王寺の所有地のところだけを掘って、その裏は小山田になっとるんですが、小山田のほうは許可やとらんから、そのまま残って。高い山がちょうど真ん中から半分なくなっているような感じ。

(緒方会長)

今回については実行に移すというところで、テーマを薬王寺にして、そこに地域の方々と文化団体の方々が活用策を考えて、それについて補助金を出していきましょと。具体的な進め方だとか、プログラムについても、今後十分に検討しないと難しいところがあるかもしれませんので、よろしく願いしときます。

(古賀委員)

事務局にお尋ねですけども、実施する詳しい内容はまだこれからということなんですけども、予算の中には、事業を具体的に実施するためのお金は入ってないようで、実施して下さる方達の自立を促すという趣旨があるから助成金をとったりというのももちろん視野に入ってるんですが、プログラムが決まってないと今から助成金を申請できないわけで、財源についてはどのようになっているんでしょうか。

(事務局)

それにつきましても、現在協議中でして、コーディネーターを含めて薬王寺との協議が終わってある程度の企画内容が固まり次第、予算についても固めていく予定です。

(古賀委員)

年度内に用意されるんですよね。年度変わると難しいなと思いますが。結構、具体的に色々動いていらっしゃる最中ということですか。

(緒方会長)

助成金については、この時期から動いていっているわけですよ。来年度実施したいとなると、予算がついてからというわけにはいかないので、もしやろうとするならば、来年度はサポートをしていくんだと。企画をしながら、実行に移していくまでのサポートをして、2ヵ年計画で、出来上がった企画書を持って、再来年度の助成金申請にむけていくようなことなのかな。大体10月から1月ぐらいまでですもんね、次年度の助成金申請が出来る期間は。

(志賀委員)

今のレッツトライ！プロジェクトの件について、昨年、一昨年私どもも参加して学ばせていただいて、実行まで移すというのをやっています。11月12日ですか、文化協会で行っているサロンコンサート、地域の史跡含めて、鬼王荘でサロンコンサートをやりましょと、今参加者を募集しております。食事代を1,500円出していただいて、市のバスを出していただいて、小山田齋宮とか、十三仏板碑とか、船原古墳とか、コース巡りをしながら、最後、鬼王荘で、岡八先生とウクレレで歌おうの会の方たちとサロンコンサートを楽しもうという事業が、レッツトライ！プロジェクトから派生したもので実践しております。もう少し、枠が

ありますので、みなさんよろしかったらご参加ください。

(緒方会長)

その予算は文化協会の予算になるんですか。

(志賀委員)

はい。委託事業であるサロンコンサートでいただいた予算の中で、あと参加者からもご負担いただいたて実行しております。もちろん、文化課のご支援もいただいていることです。一つは実行されているというのをご報告いたします。

(緒方会長)

着々と進んでいるということですね。ありがとうございます。

(西野委員)

もう一ついいですか。14 ページ、見ていただきたいんですが。市民音楽祭というのがありますよね。私が不勉強かもしれませんが、これは、過去にありました自衛隊の音楽祭、これに変わるものなんでしょうか、それともまた別個のものですか。

(事務局)

別の事業です。

(西野委員)

これはずっと続いている事業なんですか。

(志賀委員)

一度、自衛隊の方にも参加してほしいとお声かけしたんですが、なかなか実現はいたしませんでした。自衛隊は自衛隊で年間1回のコンサートをしておられます。

(西野委員)

実は、私の息子が航空自衛隊に入っておりますが、今は辞めておりますが、自衛隊父兄会で役職をしていたこともありました。お金が無いものですから、演奏費は払ったことないんですよ。相手方に出してもらおうので、相手方のスケジュールを主体に合わせることになるんですが、なかなか合わなくて、無理だということになって自然衰退していったわけですよ。今はもうありませんけど。そういうことで気になったもので質問させていただきました。

(緒方会長)

他にありませんか。

(米倉委員)

一点美術館について。今年度と大体同等の作品展示数かなと思います。糟屋地区美術展入賞作品、MOA 美術館古賀市児童作品展入賞作品、こども美術展市長賞作品等、1 ヶ月ごとに作品を入れ替え、合計 12 回、絵画の交換を行っていくという風に書いておりますが、この場所は壁面だけじゃないので、いろんな作品が飾れるんじゃないかなと思うんですよ。なので、絵画だけじゃなくて、書とか、写真、工芸の作品の展示も出来ると思います。そういう作品も入れてほしい。そして、古賀市民の作品に限定するなら、もう少し大きい作品展で古賀市の方が入賞したという話を聞いたら、その作品も入れるのもいいんじゃないかなと思います。それから、9 ページ、こども美術展は、文化協会がしてくださってるんですけども、作品展示というのは、絵画と習字をするということでもいいですかね。ここには書いてなかったの。それから、11 ページのアート・バスですけど、福岡市美術館と福岡県美術館となっておりますが、市美術館は来年は休館中ですので、候補に近くだったら、アジア美術館、国立博物館、九産大の美術館等、候補を変えたほうがいいと思います。あと、コラボというのはなんでしたかね。

(事務局)

コラボというのは、他部局事業とのコラボを考えております。

(米倉委員)

会場のほうは、どうでしょうか。他に候補がありますかね。

(緒方会長)

坂崎さんどうですか。

(坂崎委員)

県美は利用できるんですが、市美はご指摘のとおり閉まっているので、アジア美術館はもちろん候補に入れてるんですけど、運営してる立場からいうのはどうかとは思いますが、アジ美はなかなか難しくて。アジ美の学芸員が企画したアジ美主催のものと、貸し美術館みたいに、ほかの団体が会場だけ借りて運営しているものとは、駐車場の問題等がものすごく複雑なんですよ。あの辺にバスを2台置くっていうだけでも費用が膨らんでしまう。そのへんをクリアできれば、アジ美は問題ないです。九国博は、個人的な事情になりますが、あまり知り合いがないので、アクセスしにくいということと、チケットが有料なものになると結構高いので、はずしている状況です。3年前まで、北九州市立美術館に行っていたんですが、一度、小学校の低学年が参加したときに非常にバスに酔ってしまった経緯があって、はずしました。県立美術館は近いですし、毎週土曜日は子どもたちは無料で観れるので、利用頻度が上がっているというのは今のところの現状ですね。緒方先生のところは、利用していいんだったら、ぜひ利用させていただきたいなというのは、僕個人的には思います。

(加藤委員)

福岡市博物館は行きましたか。常設は、絵画というジャンルはないけども、いろんな昔の工芸品の美しさを感じるとか、常設の一番奥に、日本最古の動く車アロー号というんですが、あれは古賀とも縁が深いものなので、ぜひ見せたいなと思います。

(坂崎委員)

緒方先生のところの、学芸員の資格を取ろうとしている学生たちが、手伝ってくれているので、その子たちが説明しやすい状況になっているのは確かですね。少し内容が難しいものになると、大学生にもわからないということが以前にもあったので、比較的大学生にもわかりやすいとか、見たことがあるとか、事前に展覧会を観にいけるとか、そういうのに偏りがちになっているのが現状です。

(緒方会長)

場所については色々選定してみてください。それと、一月1回のホールの展示ですが、先ほど言われたように、色々な展覧会、公募展があっっていて、全国区の公募展もあっているわけですが、どこまで遡るかというのはありますね。昨年度から今年度の当該月までとか、どのあたりまでを対象とするのか。旬な作品のほうがいいでしょうからね。10年前に入選したものよりも、最近の県展なり、先ほども出た全国区の二紀とか二科とか、日展とか院展とか。でも、前も言ったけれど、あそこ紫外線が入るから、あんまり推奨はしないんだけど。期間が1ヶ月っていうスパンだと厳しいだろうから、ある程度時間を考えてってことも考慮して、最低限フィルムは貼ってくださいってのはありますね。ただ、みなさんが古賀市民にもアーティストたちが居るんだということを知る。いろんなジャンルのアーティストがいるんだと。みんなが寄れる場所ですからね、いいなと思います。うちの大学の美術館が、「美の鼓動」っていうTNCだったかな、10分くらいの番組をやっているんだけど、九州のアーティストたちを紹介する、刀鍛冶もあれば、最近のメディアアートもあったり、非常に広いジャンルのアーティストたちを紹介する番組をやっている。やはり、ジャンルが広いほうが楽しいですよ。先ほどあったように、絵画で固定しちゃうより、工芸とか、書だとか少し幅を広げてみるとより良いものになるかなと。そうすると楽しみになりますよね。次何出てくるのかなって。しかし、それをするにはリスト化っていう、作家データベースがリスト化出来るように、文化協会とかと相談して、そういう情報をもらえるようにすればいいんじゃないかなって思いますけど。ほかに何かありますか。

(坂崎委員)

9ページのこども美術展と、一番最後の絵画で古賀市を元気にするプロジェクトについて。僕は実は今年度文化協会の理事会のほうにも出席させていただいてるし、元気にするプロジェクトのほうではコンペとか子どもの絵画の審査もしているので、中に入っている立場で言うのはもしかしたら不適切かもしれないけど、他の会議とかでもそういう発言をしていたので一応こちらでも話しておこうかなと思います。まず、ざっと見ても子どもの絵画とい

うテーマで二つ全く同じような事業がされてて、作品を募集するのだけでも大変だと聞いてますし、合計すると60万以上の予算が使われているんですけども、そこも全体的なバランスを見てもどうかと個人的には思っています。もう一つは、これはどちらにもお話ししたと思うんですけど、展示する機会とか、コンペして審査する機会を提供するのはある意味大事だとは思いますが、子どもたちの図工の時間や絵を描く機会も減っている、学習する機会がないわけですね。コンペというか審査するのだけを行うのは事業としてどうかと思います。もう少し、学習というか経験する機会をつくるべきだと思いますし、出来ればセットになっていることが好ましいかなと思います。特に、最後のページの事業の目的のところ、児童保護者を対象とする絵画教室の開催ということが書いてありますが、これ実施されてないっていうのはどうかと思います。最後のこちらの元気にするプロジェクトのほうですけど、他の方からも複数意見を聞いたのでお話しすると、今年、この展示を市外のイオンモールの中にあるイオンホールというところでされて、参加されている方から指摘があったのは、何で市内でしないんですかという。今年表彰式があったときに、ものすごく早く保護者の方と児童が集まって、何でそんなに早く集まってるんですかって話をしたら、去年までここで展示してたから展示を見て授賞式に出てたってことでどうも早く来られていたらしくて。ここで展示することはもちろんいいことだと思いますし、そうやってセットになった認識のまま、他所でされてたということはあんまりいいことじゃないのかなと思いました。確かに、市外でっていうのはアクションプランでも周辺の施設を共同で使ったりっていうのは確か何かのニュアンスで書いてあったと思いますが、その利用の仕方は、その概念とはちょっと違うかなと思います。市内で集めた絵画を、何回目かの展示ってなると市外もあるかもしれないけど、主催者の方の説明も出来るだけ多くの方に見てもらいたいからとのことでしたが、非常に不親切に感じました。もし29年度の企画ではもう少しそこらへんをご理解してほしいなと思います。この辺の事業はおそらく公募型補助金で3年間は補助金を出しますが、その後は自身でやってくださいと自主的な活動を促しているはずなのに、私が聞いているところによると、3年で補助が終わるのでやりません、という企画の趣旨にまったく沿ってないようでしたので、そうではないんじゃないかという指導というか必要かなと思います。運営に係っている立場でこういうことを言うのはどうかとは思いましたが、みなさんにも検討していただきたいのでよろしくお願いします。

(結城委員)

あわせて私も、9ページのこども美術展と15ページの絵画で古賀市を元気にするプロジェクトについて。文化協会で運営しておりますこども美術展も9回目になりますが、MOAさんが公募型でされるようになって同じようなものが、同じような対象に、同じような形でされているのは私たち自身もどうかと思っていて、子どもたちも何もわからず出してみたい。文化協会としても29年度の予算を出していっているところですけど、私としては、公募型でやりました夏休み体験教室、伝統文化をたくさん子どもたちに伝えたい、触れてもらいたいという思いがあり、夏休み体験教室、3年間やって28年度で終わりました。あとは自分たちで実施してくださいという行政側からの指導なんですけど、限られた市からいただく委託金の中で、同じような絵画展をやるのではなくて、私個人としては、夏休み体験教室のようなものをもっと子どもたちに広げてそこで出来上がった作品を、絵画教室もやっておりますし、お習字教室も、押し花で額を作ったりですね、いろんな作品を作っておりますので、その体験教室が終わった後に作品展としてやったらどうかと考えておりますが、決定は今から煮詰めてからするんですけど、審議委員のみなさんにどのように考えているかご意見をいただきたいと思います。

(緒方会長)

子どもの発達を考えていろいろなものを用意しているわけでしょうが、子どもの成長とか子どもの健全育成とかいうのはまた別の委員会があるのかな。この中で審議する内容がそこらへんまで突っ込んでいいのかなっていうことがあるので。絵画で古賀市を元気にするプロジェクトというのは文化課が担当になるんですか。

(事務局)

公募型補助金事業の担当部署は財政課になりますが、文化事業の手続きや窓口の担当は文化課になります。

(緒方会長)

そうすると今坂崎委員の話からすると、同じようなものが二つ上がっているっていうのかな。予算が立てられた経緯とかも聞かないとわからないかなという気がしますね。

(志賀委員)

少しいいですか。絵画というのが MOA さんと同じようになっているということで一つにしたほうがいいのかなど思ったりもしますが、書のほうの発表の場といいますか、各自で作品展には出されているかもしれませんが、MOA さんにはないので、私どもとしても残したいというのがあって、書はずっと引き続いてやりたいなど。MOA さんは絵画で、私どもは書でやっていくのはどうかと今いろいろ意見を出し合っているところなんですけど、まだ MOA さんとはお話ししておりません。中間報告ですけど、以上です。

(緒方会長)

坂崎委員、いろいろ動いているみたいですよ。といっても、対象は子どもたちだから子どもたちが出してみたい、そして親はそれが入選なり入賞なりしたら見てみたい、という気持ちがあるから、あんまり我々のほうで決めていくことではないかなと。ただ、まとまるならまとまるでそれにこしたことはないですが、ただし、先ほど坂崎委員が言われたように、図工の時間が圧倒的に短くなっていて、今 2020 年に向けて新しい学習指導要領が改定の準備で、今年度中に枠が決まってくると思うけども、2 つ新しい科目が出てくるんですよ。英語とプログラミングという科目が出てくるので、どうしてもやっぱり他の科目の時間数を削らざるを得ないという状況が生まれようとしているんですね。そうすると一番ターゲットになるのは音楽、図工、家庭科というところですよ。図工については、先週もある小学校にうちの芸術学部の学生を 40 人くらい連れて行ったんだけど、先ほど坂崎委員の話にもあったように、絵が描けないんですよ。描けないっていうのは、時間的にも圧倒的に少ないっていうのもあるんですけど、図工の専科の先生が小学校にほぼいない。そうすると、先生たちも苦痛な時間らしいですよ、図工というのは。そうすると、その支えは芸術系の大学なんだなってことを改めて思ったことですね。展覧会をするにしても、そういうプロセスっていうのかな、基盤をしっかりとすることで子どもたちの絵の質を上げていくそういう戦略も合わせていかない、結果だけを用意しても、子どもたちは今どちらかというアンケートをとってみても、図工の時間嫌いという子どもたちが非常に多くなっていることが顕著になってきています。結果的なものとして何か絵画展や展覧会をするということなんだけども、人づくりだと子どもたちが文化芸術に親しんでいくっていう機会をつくっていく、もっと基盤のところこの展覧会が位置づけられていくようになればいいのかなと思います。

(坂崎委員)

目的は緒方先生がおっしゃったことだと思うんですけど、大人の事業運営がメインになっているように感じますし、本来は全然そうではないと思うんですよ。例えば、去年描いた子が何かの機会にスキルアップして、それが認められると、来年も出そうかなって気になると思うんですけど、途中が何も無いまま、ある時期になるとまた募集しますと先生に言われて、あなた描いて来なさいと描かされている訳ですから、特にそれは何もスキルアップしないまま繰り返されているわけで。大人がそれをコントロールするのはどうかと僕は思うし、もっと大きな体系の中で考える必要があるのかなと思ったので、お話ししたところです。

(緒方会長)

予算としては僕はあげてもらったほうがいいと思いますけど。進め方をもう少し考えていきましょう。文化協会さんの活動は非常に活発だから、そこに子どもたちを巻き込んでいくことも何か一つ手がかりになるかもしれないですね。どうやって巻き込んでいくかはわかりませんが、学校の先生たちは、学校内の授業で、図工の時間を深めていく、進化させていくのは難しいと言っておられますので、学校外のところで、子どもたちに絵を描く喜び

だとか、何か物を作る楽しさを体験できるような場を、実際今も用意してはありますが、ただそれは日常なり学校なりの場面ときちんと繋がっていくもの、生活の中にそういう芸術なりが当たり前にあるっていうか、そういう風になればいいなと思います。家族が楽しみにされているっていうのが一番うれしいことですからね。自分の子どもが頑張ったなっていうところを見たい、そこで親子間の会話も生まれますし、子どもはそれを受けて励みになり、先ほど坂崎委員も言われてましたけど、来年もまた出そうかなと、ただ出すためにはもっと何すればいいのかなと思ったときに、文化協会さんがそういう教室を用意されていると。例えばうちの大学でもいいですけどね。体験教室で、子どもたちに絵を描く楽しさを教える。やっぱり、コツがあるわけですよ。その前提は観察なんですよ。圧倒的に今子どもたちの観察力が低い。物を見ていない、見たつもり。そこを伝えるっていう活動をしています。まあ、話し合っていきましょう。他に何かありますか。

(古賀委員)

アクションプランの進捗状況が気になっておまして、プランを作って、実施に入って3年度目になるんですかね、そろそろ行政がおこすの短期に関してはどれくらいやれているのかなということを考えながら、来年度どういうことをしていくか考えないといけないんですけども、文化に関して1年や2年で何が言えるんだ、難しいということは承知の上で、質問なんですけど、事務局として来年度事業を組んでいくにあたって、ここら辺を力入れないといけないなと思って組んだとか、あるようでしたら教えていただきたいんですが。進捗状況と合わせて今どのようにお考えかというのを聞かせていただけますか。

(事務局)

現時点で、何パーセント行われているというような具体的な数字は出せないんですが、前々から本審議会のほうでもお話させていただいた、商工観光振興を文化芸術の力で支援するという部分が、例年実施できていないということがあり、来年度の予算に関してはその部分にも力を入れたいと考えております。

(古賀委員)

どこら辺まで進んでいるからこれは順調だとか、ここら辺は少し足りなさそうだから来年はここに力入れなきゃというような、例えば、ご説明いただくときにでも少し見ればわかりやすいかなと思いますので、またこれからも来年度以降の事業については予算が確定したあとこの会議の中でも話題に上がることがあるかと思っておりますので、アクションプランを意識しながらの議論ができればいいなと思います。よろしくお願ひします。

(坂崎委員)

例えばチェックシートみたいなやつってのは、インフラとか社会保障とか専門があると思うんですけど、例えば古賀さんのほうとかで、こんなチェックシートありますよとかどっかよそでやっているようなものがあればお貸しいただいて、そうしたものを引用したらどうかなと。

(古賀委員)

チェックシートですか。文化施設のものとか無くは無いは思うんですが、そのままこれにもってこれるかというところでもないんで、持ってくると膨大な業務量が増えるので必ずしもいいかどうかはわからないんですけど、何かの形でチェックするとか、評価するとかいうには必要なのかなとは思っています。おそらく、このアクションプランについても、どこかの時期で中間評価をしないとイケないと思うんですけども、年度ごとの事業で実施されていく部分があるので、望ましいのは、次の予算要求をする時期に、ここまでで何ができている、何が手薄かということを確認できると思うんですよ。それで先ほど申し上げた質問につながっていくんですけども、チェックシートまではいかなくても、今どうなってるんだということを私たちも共有しながら話ができればいいかなと思っています。なかなかね、難しいんだけど、どうやっていくかってのも話し合ったほうがいいかもしれませんね。

(緒方会長)

方法としては、マトリックスみたいに、3カ年で、縦軸に、～をおこすっていう項目を入れて、

予算のときに備考でどこに該当するか書く、もちろん重複はするんだけど、そうするとたまりっというのかな、たまりがどこに多くなっているのかっていうので、さっきの話、どこに力を入れていて、どこが手薄なのかというところわかる。

(志賀委員)

最初にアクションプランができたときに、文化協会ではこれに対してこれを行っているという落とし込みをしたわけですね、素人ながらよくわかるわけですよ。自分たちに何が足りないか。一番最初にそれをご提供したんですけど、どこかにいってしまったんですかね。私としては一番わかりやすい表現の仕方だと思います。それが年度年度で作成されたら変わっていくわけですよ。それが見えやすいかなと思ったんですが。この項目に対して、すぐ横のページにこれはここでやったと落とし込んでいくんです。

(緒方会長)

もちろん、継続的にやる事業もあるでしょうが、優先順位というのが出てくるわけだから、今年度についてはこれ、来年度についてはここがちょっと薄いからここを重点にしたいと、ここをちょっと増やしたいという戦略が見えるよね。そういうの作ると。そうすると、事務局としても、他部局と話をするにあたって、他部局もアクションプランを基にしながら予算を作るという意識がより徹底されるようになってくる。同じようなものがバッティングするようなことがあるならば、配分を他のところに回そうかねということがお互いに言いやすいというのかな。

(古賀委員)

という目でアクションプランを見たら、もう少しタイムスケジュールを入れておけば良かったなと思います。そういう話も当時したような気もするんですけども、行政が担当する部分に関してだけ短期長期をいれるということで結局おちついたんですけど。結局、こうやってどこまでいったんだと検証、評価しようとする、わかりづらくなってしまっているのがやっぱり出てきたなと思いますので、見直しをする機会があれば、ここからはいつまでに何をするんだということが見えるようになっておけば良かったなと思っております。

(緒方会長)

初めてのワンクールになるわけで、見直しの準備が来年度からはじまるようですから、ここを出てきたことを踏まえながら見直しの材料を探すっていうことにしていきたいと思います。

5 その他の事項

(緒方会長)

事務局から何かご説明あればおねがいします。

(事務局)

お手元に配布させていただいておりますチラシ、船原古墳の記念企画展についてご説明させていただきます。チラシをご覧ください。平成28年10月3日に古賀市初の国史跡指定を受けました船原古墳展を実施いたします。期日は11月1日～12月11日までです。会場は歴史資料館となっております。古賀市から出土した貴重な馬具類を近隣の市町から借りた出土品と比較しながら展示させていただきます。特にご注目いただきたいのは、船原から出土した国内3例目となります馬冑が、クリーニングを終えて、今回初めて一般公開されます。本物の馬冑でございます。今回を逃しますと、しばらくは古賀市ではご覧いただけませんので、ぜひこの機会にご来場いただければと思います。また、歴史資料館自然史・歴史講座として講演会を行います。期日は11月19日(土)です。リーパスプラザこが交流館多目的ホールであります。演題は「船原古墳とその時代」と題しまして、佐賀大学芸術地域デザイン学部の重藤先生にご講演いただきます。大変お忙しいと思いますが、ぜひご来館ください。

(緒方会長)

他にありますか。

(事務局)

併せて、お手元に配らせていただきましたポストカードにつきまして、本課で2月に開催予

定としております赤星信子展のこともありまして、参考までにお配りしています。赤星信子さんのご遺族が主催される展覧会で11月初めに開催されますので、こちらは教育委員会の主催事業ではありませんが、お時間がある方は行っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(緒方会長)

ありがとうございます。次回の審議会は、来年の2月を予定しているということでよろしいですかね。またそれについては調整をお願いします。今日は来年度の企画を見る機会を得て、みなさんのほうからは適宜様々なご意見をいただきました。各々大変かとは思いますが、ここで出た意見も踏まえながら、予算を獲得してください。よろしくお願いいたします。それでは、これで本日の審議会を終了いたします。

【終了】